



## 麦生育期間中の管理

麦の栽培期間は6か月以上と長期にわたります。冬の間は生育は緩やかですが、3月中旬ごろの茎立ち期（年により変動する）以降は、急激に生育が進みます。冬から出穂期にかけての栽培管理としては、麦踏み、追肥、雑草防除があります。いずれも大事な作業ですので、時期を逃さず実施してください。

### 1. 麦踏み

麦踏みは、麦の生育環境改善と生育をコントロールする作業です。効果は以下の通りです。

- 1) 霜柱による根の浮き上がりを防止します。特に、種まきが遅い場合は、株が小さくて根の張りが悪く、霜柱で根が浮き上がり、枯死することがあるので、しっかり行います。
- 2) 作物体内の汁液の濃度を高めて、耐寒性を強くします。
- 3) 伸びすぎをおさえ、倒伏を軽減します。
- 4) 分けつを促進し、穂数を増加させるとともに、穂ぞろいを良くします。

麦踏みは、土が乾いた天気の良い日に実施します。3葉期から茎立ち前までに3回程度を目標に行います。前回の麦踏みから10日以上の間隔をあけましょう。

気象庁の関東甲信地方の3か月予報では、1～2月の気温は「低い確率40%」「高い確率20%（1月）、30%（2月）」、3月は「低い確率30%」「高い確率40%」と発表されています。霜柱の発生や麦の生育状況を観察し、麦踏みを適切に行いましょう。

### 2. 追肥

適切な追肥は、多収と高品質につながります。生育に合わせて施肥時期、量を加減します。

- 1) 生育量不足の場合は、茎立ち期に10aあたり窒素量2～4kg施用し、茎数・穂数の増加をはかります。
- 2) 生育量が適切な場合は、小麦は出穂期15日前に、大麦は出穂期に10aあたり窒素量2～4kg施用します。特に子実タンパク質含量が低い場合は有効です。施用量が多すぎると、遅れ穂が多発するので注意します（火山灰土壌の畑など子実タンパク質が高い場合は、追肥を行いません）。
- 3) 生育が過剰な場合は追肥を行いません。

### 3. 雑草防除(雑草茎葉散布)

播種時の土壌処理剤では防除できず、麦の生育期間中に発生した広葉雑草は茎葉処理剤で防除します。雑草が大きくなると効果が劣りますので、散布が遅くならないよう使用時期に注意します。

表1 大麦の雑草茎葉散布剤の例（令和5年1月4日現在）

薬剤名	対象雑草	使用量（散布水量）	使用時期	使用回数
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	50～100ml/10a (100ℓ/10a)	大麦節間伸長開始期まで（広葉雑草2～4葉期）但し、収穫45日前まで	2回以内
アクチノールB乳剤	一年生広葉雑草	100～200 ml/10a (70～100ℓ/10a)	穂ばらみ期まで（雑草生育初期）	2回以内

表2 小麦の雑草茎葉散布剤の例（令和5年1月4日現在）

薬剤名	対象雑草	使用量（散布水量）	使用時期	使用回数
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	50～100ml/10a (100ℓ/10a)	小麦節間伸長開始期まで（広葉雑草2～4葉期、ヤエムグラ2～6節期）但し、収穫45日前まで	2回以内
バサグラン液剤（ナトリウム塩）	一年生雑草（イネ科を除く）	100～200 ml/10a (70～100ℓ/10a)	生育期 但し、収穫45日前まで	1回
アクチノールB乳剤	一年生広葉雑草	100～200 ml/10a (70～100ℓ/10a)	穂ばらみ期まで（雑草生育初期）	2回以内

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。